

レファレンス事例集紹介

民俗編

Q.レファレンスって何？

A.図書館職員が図書館の資料を活用して調査相談のお手伝いをし、資料や情報を提供するサービスです。

佐賀県立図書館に寄せられたレファレンスの中から、選りすぐりの事例を御紹介します。



質問 ^{みしま}見島の「カセドリ」について知りたいです。

回答 カセドリは、佐賀市蓮池町見島地区で毎年2月の第2土曜日の夜に催される神人訪問の行事です。

青年2人が藁蓑を着けカセドリに扮し、^{くまの こんげんしゃ}熊野権現社の拝殿に走り込み、青竹を「ガチャガチャ」と打ち鳴らします。その後、提灯持ち、御幣持ち、籠担いの付き添いを従えて各家を回ります。カセドリは家に飛び込み、青竹を畳や床などに打ちつけて悪霊を祓い、家人は酒や茶などを振舞います。口伝によれば寛永時代から始まったとされ、^{なおよみ}鍋島直澄が熊野権現社を建立したことに由来します。

参考文献

- ①『歴史の宝庫佐賀ん路を歩く』
さかの歴史と文化遺産を歩く会 2013年
p.178-179
- ②『祭礼行事 佐賀県』
高橋 秀雄／編
桜楓社 1991年
p.113-120

質問 唐津くんちの「曳山」の由来を知りたいです。

回答 唐津くんちの曳山は「ヤマ」とも呼ばれます。曳山ができる以前にも、唐津にはそれと似たようなものがあり、神祭に用いられていました。現在の曳山は、江戸時代の文政初頭に京都の祇園山鉾をみて感動を覚えた刀町の石崎嘉兵衛が、帰郷して有志を募りつくった「赤獅子」から始まったとされています。近世後期から明治初期にかけて、15台（そのうち1台は現存せず）の曳山が唐津神社に奉納され、現在まで受け継がれています。

参考文献

- ①『曳山のはなし』
古舘 正右衛門／著
1985年 p.25-69
- ②『唐津市史 復刻版』
唐津市 1991年
p.1302-1305
- ③『郷土につくした人々』
唐津市教育委員会／編
唐津市教育委員会
2008年 p.61-64

質問 伊万里で行われている「しめ縄切り」について知りたいです。

回答 諏訪神社の宵宮祭で約200年続くとされる神事です。毎年10月22日の夕刻、伊万里市松浦町桃川の^{ろくろ}鹿路峠にしめ縄を広げます。くじで選ばれた氏子の一人が酒を何杯も勧められながら刃をつぶした鎌でしめ縄を切り、地域の安全と五穀豊穡を願います。婦人(須勢理媛とも)が鹿路峠で出産し、通りかかった商人がへその緒を切ったという伝説にちなみ「へその緒切り」とも言われます。

参考文献

- ①『伊万里市史 民俗・生活・宗教編』
伊万里市史編さん委員会／編
伊万里市 2005年
p.407-409
- ②『佐賀新聞 令和元年10月26日』
20面
- ③『伊万里に伝わるまつりと行事』
中野 隆三／編 2000年
p.27-28, 63-64

質問 佐賀の金華糖とはどのようなものですか？

回答 金華糖は、飴細工と組み合わせた「寿賀台」の一部を構成するもので、佐賀の祝い事とりわけ結婚納の時などにはかかせないものとして重宝されてきました。金華糖には翁や媪、結婚式の引き出物の鯛や海老をかたどったものがあり、塩田から有田、伊万里にかけての佐賀県西部でさかんに作られていました。『南蛮から来た食文化』には江戸時代の「諫早家文書」に寿賀台を飾って祝う風習があったとする記述が紹介されています。

参考文献

- ①『ふでばこ 27号』
白鳳堂 2013年
p.27
- ②『肥前の菓子』
佐賀広告センター／編
村岡総本舗 1999年
p.59
- ③『南蛮から来た食文化』
江後 迪子／著
弦書房 2004年
p.92-93

質問 尾崎の「ててっぼう」について知りたいです。

回答 神崎市に受け継がれている伝統民芸「尾崎焼」の一つで、鳩笛のことです。首をすこし横にねじった姿は尾崎だけのもので、素朴な音色が特色です。尾崎人形は何十種類もありましたが、なかでも鳩笛は子どもが争って買っていたようです。この名称は、キジバトの鳴き声「デデポポーデデポポー」から付けられものではないでしょうか。

尾崎焼は蒙古の捕虜が伝えたともいわれており、筑後市赤坂にもよく似た玩具が残っています。

参考文献

- ①『佐賀県大百科事典』
佐賀県大百科事典編集
委員会／編 佐賀新聞社
1983年 p.575
- ②『ふるさと雑記帳』
手塚 辰夫／著 佐賀新聞社
1981年 p.46-47
- ③『神崎町史』
神崎町史編さん委員会／編
神崎町史編さん委員会
1972年 p.542-544
- ④『佐賀弁一万語』
福山 裕／著 佐賀印刷
1995年 p.238

質問 佐賀の昔話や伝説、世間話集などで、天狗の話が掲載されている資料はありますか。

回答 天狗は、信仰または想像上の霊神であって、防災・鎮火の守り神として信仰され、平素は山中に住み、鼻高く羽翼を有しているとされます。
佐賀県に伝わる天狗の昔話や伝説として、「孝行息子と天狗岳」「天狗様の鼻がなぜ赤い」「天狗の高笑い」「天狗と隠れ蓑笠」等の話が『蒲原タツエ媪の語る843話』や『唐津かんねの昔』に掲載されています。

参考文献

- ①『佐賀の石造文化』
佐賀市教育委員会／編
佐賀市教育委員会
1978年 p.27-28
- ②『蒲原タツエ媪の語る843話』
蒲原 タツエ／[述]
三弥井書店 2006年
p.416-419,510-511,612
- ③『唐津かんねの昔』
富岡 行昌／著 講談社
1976年 p.191-198

佐賀県立図書館のホームページで、レファレンス事例を公開しています。
ぜひご覧ください。

「佐賀県立図書館ホームページ」→「レファレンス（調査・相談）」の「事例集」をクリック → 「キーワード」等を入力

[<https://www2.tosyo-saga.jp/kentosyo2/reference/search.do>]

✓CHECK



【問い合わせ】

佐賀県立図書館
司書ネットワーク課
相談・サービス担当
☎0952-24-2900